

技術人材の現状および育成・確保の取組について

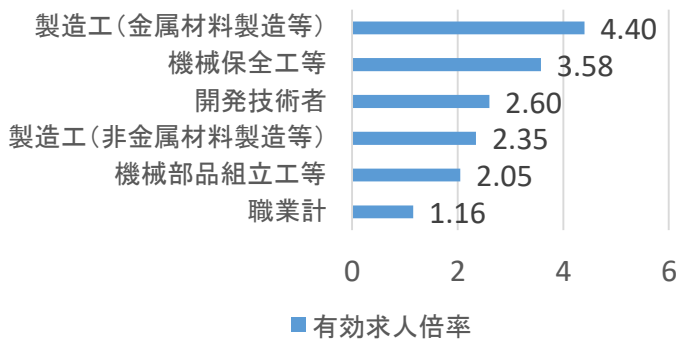
1. 技術人材の現状

(1) 有効求人倍率

- ・令和5年8月の県内の有効求人倍率は1.16倍。
- ・製造関係の技術系人材に関しては、製造工や、設備・ラインの保守保全等を行う機械保全工等、半導体製品製造工を含む機械部品組立工等の求人数が多く、有効求人倍率が2倍を超えている。

【職業別有効求人倍率（令和5年8月（原数値））】※一般フルタイム

技術系人材のうち有効求人数500人以上かつ有効求人倍率2.0倍以上のもの



(2) 県内技術系企業の状況

- ・令和4年度に商工部が実施した県内主要製造業等への調査では、中小企業の約9割が「技術人材が不足」または「今後不足する可能性がある」と回答。
- ・不足する要因として「自社の認知度が低い」、「マッチングの機会が少ない」、「必要な技術を持った人材がいない」などを理由に、幅広い業務分野にわたり、新卒及び経験者の採用ができていない。

【技術系人材の状況】

		全体	大企業	中小企業
不足	件数	88	28	60
	率	74.6%	77.8%	73.2%
今後不足の可能性	件数	16	3	13
	率	13.6%	8.3%	15.9%
足りている	件数	14	5	9
	率	11.9%	13.9%	11.0%
計	件数	118 社	36 社	82 社
	率	100.0%	100.0%	100.0%

89.1%

【不足している要因】

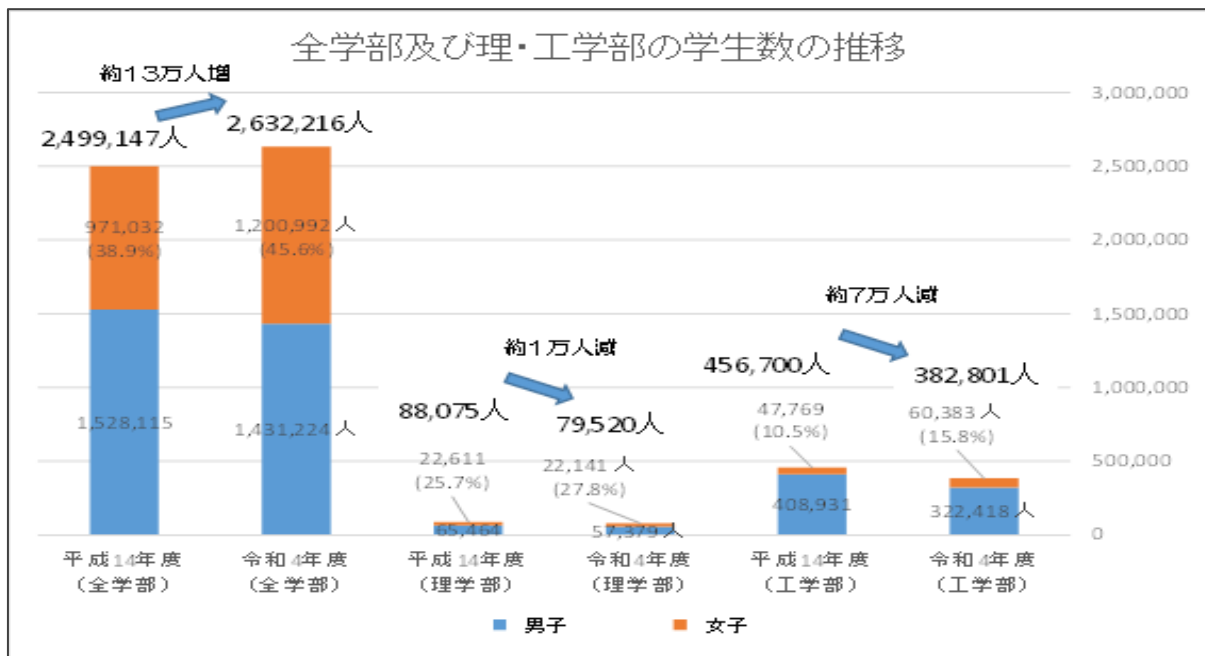
		全体	大企業	中小企業
自社の認知度が低い	件数	59	16	43
	率	29.4%	24.6%	31.6%
マッチングの機会が少ない	件数	38	10	28
	率	18.9%	15.4%	20.6%
必要な技術を持った人材がいない	件数	59	19	40
	率	29.4%	29.2%	29.4%
その他	件数	45	20	25
	率	22.4%	30.8%	18.4%
計	件数	201 件	65 件	136 件
	率	100.0%	100%	100.0%

※複数回答ありヒアリング企業数の合計と一致しない

(3) 学生の状況

①大学生

- ・文部科学省の「学校基本調査」によると、令和4年度の大学進学者数は平成14年度に比べ約13万人増加している一方、理学部は約1万人、工学部は約7万人減少。
- ・また、性別で見ると女性の進学者数は増加傾向であるが、理学部、工学部への進学は依然として低い。女子学生の割合は理学部が約28%、工学部が約16%



出典：「学校基本調査」（文部科学省）

②高等専門学校（高専）

- ・県内高等専門学校の就職状況について（令和5年3月末）
 - 卒業生 587人 就職者 330人
 - 就職希望率 57.1% 就職決定率 98.5%（県内 23.6% 県外 76.4%）

③高校生

- ・県内高校の就職状況（令和5年3月末）
 - 卒業生（全体） 22,893人 就職者 3,779人
 - 就職希望率 16.8% 就職決定率 98.3%（県内 77.8% 県外 22.2%）
 - うち工業科 2,220人 就職者 1,601人
 - 就職希望率 72.1% 就職決定率 99.4%（県内 66.0%、県外 34.0%）

2. 本県における技術人材の育成・確保の課題

- ・学生のテクノロジー分野への興味・関心を高め、テクノロジー分野に進む人材の創出が必要。
- ・県内技術系企業で働くことを目指す人材を一人でも多く生み出すため、県内中小技術系企業の魅力や優れた技術の認知度向上を図るプロモーションなどの強化が必要。
- ・県の成長産業や基幹産業である半導体分野や自動車分野、デジタル分野、ものづくり分野で活躍する技術人材の継続的な育成が必要。

3. 商工部技術人材育成室の設置

- ・テクノロジー（技術）人材不足という課題の解決に向け、県の成長産業等で活躍する技術人材の育成・確保に取り組むため、令和5年4月から商工政策課内に「技術人材育成室」を設置。
- ・併せて、テクノロジー（技術）人材の育成・確保の取組を強力に推進するため、商工部内で所管していた各種人材育成・確保事業を同室に集約。

4. 技術人材の育成・確保の取組について

(1) 理工系人材の育成

①福岡テクノロジー人材創生塾の開催（R5 新規）

進路、進学先の検討時期にある中高生を対象に、半導体の最先端技術の研究者や世界トップシェア企業の技術者から半導体について学ぶ教育プログラムを実施し、技術者を目指す人材を創出



▲福岡テクノロジー人材創生塾

②県内技術系企業の魅力発信（R5 新規）

本県の成長産業や基幹産業である半導体、自動車、デジタル、ものづくり分野の魅力を伝えるPR動画を作成し、YouTubeやX（旧Twitter）等のSNSを利用し中高生等に広く情報発信をするとともに、県内技術系企業の基本情報や会社見学等の情報を発信するポータルサイトを開設

③学生を対象としたIT・デジタル教育等の実施

- ・デジタル社会で活躍する人材を育成するため、県内小中学生を対象としたプログラミングコンテストを実施
- ・プログラミング言語Rubyを活用した実践的な高校生向けプログラミング教育「フクオカRubyキャンプ」を開催
- ・大学生等を対象に、ブロックチェーンアプリの開発を伴走型で支援するワークショップを開催

④県内工業高校の取組

- ・産学官連携産業人材育成事業（自動車、半導体、環境・エネルギー分野等）
高度で実践的なものづくり技能を持つ人材を育成するため、県内企業の高度熟練者による学校での実習指導や、企業における教育・訓練（インターンシップ）を実施
- ・半導体人材育成事業
半導体関連産業で活躍する高卒人材を育てるため、半導体関連企業における1日実習体験を実施

⑤企業別オーダーメイド訓練の実施

技術系人材の県内就職に繋げるため、高等技術専門校でものづくりを学ぶ訓練生を対象に、企業の個別ニーズに対応したオーダーメイド訓練を実施し、技術人材の確保を図る

(2) 県内技術系企業の認知度向上・マッチング

①オープンカンパニーツアーの開催 (R5 新規)

県内外の理工系大学生や高専生を対象に、半導体関連企業をはじめとする県内技術系企業を見学・体験するツアーを開催し、県内企業への就職を促進



▲オープンカンパニーツアー

②オンライン面接会・インターンシップの実施

- ・ 県内半導体関連企業等とそれらへの転職・就職を希望する県内外の技術系人材や学生とのマッチングを支援するため、合同会社説明会・面接会を開催
- ・ 県内半導体関連企業等の技術や魅力を、県内外の学生を対象に発信するため、インターンシップを実施

③県内技術系企業の魅力発信 (R5 新規) (再掲)

本県の成長産業や基幹産業である半導体、自動車、デジタル、ものづくり分野の魅力を伝えるPR動画を作成し、YouTube や X (旧 Twitter) 等のSNS を利用し中高生等に広く情報発信をするとともに、県内技術系企業の基本情報や会社見学等の情報を発信するポータルサイトを開設

(3) 企業の技術系人材の育成・確保

①県の成長産業分野で活躍する技術人材の育成・確保

○半導体分野

・福岡半導体リスキリングセンターの開設 (R5 新規)

本県をはじめ九州・全国の半導体人材不足に対応するため、半導体分野やデジタル産業分野の重要技術に精通した人材を育成する「福岡半導体リスキリングセンター」を8月23日に開設。半導体を「作る側」と「使う側」に分類した講座を提供し、基盤技術から応用技術まで幅広い人材を育成。



▲福岡半導体リスキリングセンター



▲黒田忠広センター長
(東京大学大学院教授)



▲講座の様子

○自動車分野

- ・ 自動車のCASE技術に対応する高機能化や電動化に伴い必要となる部品や技術の最新情報を提供するセミナーを開催
- ・ 電動車の主要部品を実際に活用し、基幹部品・関連技術を習得する「出前電動化技術道場」を開催

○バイオ分野

- ・機能性表示食品届出のためのガイドラインを理解する人材の育成支援を目的とした研究会を実施

○水素分野

- ・水素エネルギー新産業への参入を目指している企業を対象とした技術者育成講座を開催

②デジタル化推進人材育成講座の実施

ものづくり中小企業のデジタル化を推進するため、中小企業の生産部門の責任者、現場技術者の階層別の講座を提供し、現場のデジタル化を推進する人材を育成

③ものづくり生産性向上中核人材の育成講座の実施

中小企業の技術者向けに、三次元設計や金型、めっき、プラスチックの製造基盤技術に関する講座を提供し、ものづくり中小企業の生産性向上に資する中核人材を育成

④中小企業 DX 人材育成講座の実施

中小企業で DX を推進する中核人材や外部から支援する支援人材を対象に、レベルに応じた講座や、ワークショップ等を組み合わせたプログラムを提供し、DX を推進する人材を育成

5. ご議論いただきたいこと

- ・テクノロジー分野を目指す学生、特に女子学生のテクノロジー分野への興味・関心を高めるための取組について。
- ・県内技術系企業で働くことを目指す人材を増やすための効果的な取組について。